



創立151年

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子
わにっこり

和邇小だより 令和6年 12月号

児童数384名 文責 澤村幸夫



運動場の周囲にある「イロハモミジ」が紅葉のピークを迎えています(右の写真)。毎年「紅葉狩り」を楽しみにしている人も多いと思いますが、秋になると、「今年の見頃はいつだろう?」と気になってしまいます。今年は12月上旬が見頃の観光地も多いようです。

日本人にはなじみの深い紅葉ですが、日本の森林環境が、この壮大な美を創り出しています。常緑樹と落葉広葉樹が混じりあったその美しさは世界一と言われています。緑・黄・赤の絵の具をのせたパレットのようで、海外からの観光客が増加するのも自然な流れです。

植物の葉は「葉緑素」という緑色の色素が含まれていて「光合成」をしています。常緑樹と比べ落葉広葉樹は、葉が薄く面積が広いという特徴があります。春から夏にかけて効率よく光合成をするためです。秋から冬にかけては、太陽の光が弱くなることから、落葉広葉樹は葉を残すことなく、これまでに得られた栄養分を幹に蓄えることで厳しい冬を乗り越えます。葉をつけていると表面から熱や水分が奪われ、葉を維持するためにエネルギーが消費され、効率が悪くなるからです。

葉にある緑色の色素の「葉緑素」が減り「カロチノイド」という黄色の色素が多くなると、木々は黄色が目立つようになります。また、赤い色素「アントシアニン」が作られると、今度は赤く色づくことになります。やがて、葉は落ちていきます。

人から見て美しく見える紅葉ですが、植物にとっては少しでも多く栄養分を取り込み、冬を乗り越えるための重要な働きです。日本には紅葉の名所と言われる場所が各地にあります。同じ場所でも年によってその美しさが変わります。日本の自然が私たちに与えてくれた奇跡の恩恵に感謝したいと思います。

修学旅行

2024

10/31, 11/1

6年生が楽しみにしていた修学旅行は、おおむね好天に恵ま

れ、1泊2日の行程を無事終えることができました。神戸では「人と防災未来センター」にて、語り部さんから29年前に発生した「阪神淡路大震災」の体験を

聴かせてもらいました。2日目は「姫路セントラル」です。仲間とまわる遊園地とドライブスルーサファリを存分に楽しみました。

実行委員会を中心に、子どもたちが主体的に運営し、宿泊を伴う集団での生活において、随所で良い姿を見せてくれました。ダイジェスト版として動画にまとめましたので、QRコードからぜひご覧ください。



修学旅行ダイジェスト

紙面配布のみ表示



期間限定 12/1~12/31



4年生は、森林環境学習「やまのこ」で葛川少年自然の家に1泊2日の日程で出かけました。

1日目はあまごの串づくりに始まり、あまごつかみとわんぱくラリーを行いました。夜のつどいは、キャンドルセレモニーを楽しみました。2日目は「焼き杉」です。大自然の中で、子どもたちは互いに協力して活動することができました。短い動画にまとめましたので、ご視聴ください。



5年 5・5交流 11/7・15

5年生と5歳児の交流が続いています。来年の4月に元気いっぱい入学してくれる園児たちに、楽しんでもらおうと、各グループで工夫したおもしろい遊びを企画しました。5年生は、早くも、次年度の最高学年としての自覚を持って頑張っています。



ろい遊びを企画しました。5年生は、早くも、次年度の最高学年としての自覚を持って頑張っています。

6年生 かまど体験 11/13・14

6年生では防災の学習を進めています。避難所生活では、水・電気・ガスなどのライフラインがとまります。中庭のかまどベンチを活用し薪でお湯を沸かす体験をしました。現代は便利な生活ですが、いざという時にどう行動するか、6年生の子どもたちには防災リーダーになってほしいです。



和邇小学校の夢づくりプロジェクトである「わにっこり☆プロジェクト」の山場が「妹子祭り」です。文化の日で祝日でしたので、希望者のみの参加となりましたが、和邇小学校の子どもたちが活躍してくれました。

4年生は、運動会の団体演技「輝く未来にはばたけ」を披露しました。大勢の観客の中で、迫力満点の演技を見せてくれました。



5年生は「お楽しみブース」です。祭りに参加した小さな子どもたちに楽しんでもらおうと、とても楽しいゲームをいくつも用意して

てくれました。小さな子どもたちは夢中で遊んでいました。

6年生は「ガラポン抽選会」を担当しました。和邇商店街をめぐるスタンプラリーでガラポン抽選ができ、わにっこりティッシュ、わにっこりシール、わにっこりキーホルダーがもらえます。多くの皆様に楽しんでもらえる企画となりました。



大津市陸上記録会 11/12

11月12日に、皇子山陸上競技場で開催された陸上記録会に、全校を代表して5・6年生27

名が参加しました。練習期間を含め、自己の記録更新に向けて、一生懸命競技に取り組みました。



シリーズ 「未来への扉」 第9弾 「チャレンジングな経験」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ情報を掲載したいと考えています。子どもは「地域の宝」です。未来をたくましく生きる子どもたちにつけてほしい本当の力とはいったい何か、子どもが生涯にわたり幸せに生きていくには、周囲の大人はどんな関わりを大切にしていけば良いのか、共に考えていきたいと思います。



大きくなった学校のアロワナ
本文との関連はありません。

第9弾は「チャレンジングな経験」についてです。学校では「探求的な学習」が定着してきました。小中学校のみならず、高校の学科やコースにも、「自ら課題を見つけ、協働して課題解決に向かい、社会を変えるきっかけにする」という学びが広がってきました。社会問題を通じて「自分はどういうことをしていきたい」という将来像を持つことはとても重要なことです。

では、小・中学生のうちから「社会問題への関心」を高めるにはどうしたらよいのでしょうか。特に低学年では難しく感じられることもあると思います。

キーワードとなるのが「チャレンジングな経験」を持つことだと思います。教育総合研究所等の分析結果によると、小学4年生までに少し難しいチャレンジングな経験、言い換えると好奇心や探索、果敢な挑戦、夢中・没頭、達成・自信、将来を見つめ考える、といった経験をした子どもほど、高校卒業時まで、社会への関心や将来への見通しを持っていることが明らかになっています。少し難しいことに周囲の大人の助けを借りながら取り組むことは、子どもたちの視野を広げます。それが、周りのこと、やがて社会のことに関心が広がってことにつながります。

先日(11月25日)、6年生を対象に「夢!自分!発見プログラム」を実施しましたが、感想の中に次のようなことが書かれていました。「自分の好きなことをとことん追求していきたい」「誰かの役に立つ仕事を見つけない」「今まで誰もやったことのない仕事がしたい」「今回、将来の夢を持つことができた」「将来の自分が楽しみにになりました」「自分が本当にやりたい仕事が見つかった」。プログラムの担当者は、「日本の将来は明るいな」と話されていました。

「チャレンジングな経験」を持つといっても、ハードルの高い特別なことをする必要はありません。日常生活にプラスαで取組めることとして、「問いかけを意識する」ということがあります。たとえば、学校で行われている授業や体験、休み中の出来事や自由研究など、子どもの活動に関心を持って「どんなことが分かったの?教えてほしいな」と学びのアウトプットを促してみると良いと思います。「なんでこうなるのだろう」「自分はなぜこう考えたのだろう」と一歩踏み込んで考えるきっかけが、子どもの知的好奇心に火をつけるかもしれません。

また、テレビなどを見ながら、大人が当事者として感じた社会問題について話をしあうのも効果的です。保護者や教師が体験したことや感じたことであれば、子どもも「自分には関係のない話題」とは思わずに、考えることができると思います。



学校のネオンテトラ
本文との関連はありません



和邇小学校の
ホームページ

学校だより「わにっこり」のカラー版は、和邇小学校のホームページから「学校便り」をクリックしてください。

予測が難しい社会の中で、将来どうなるのかや、常に変化する職業を直接教えることは難しいものです。しかし、普段の生活の中からチャレンジングな経験を促すことは、身近な保護者や教師だからこそできるサポートです。子どもたちが、将来の社会や生活を想像して、「将来幸せに生きるために学ぶ」という動機付けにつなげていけたらと思います。